

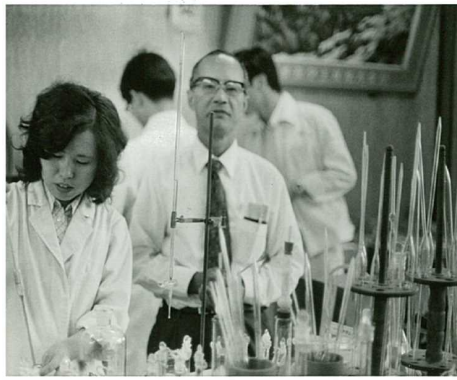
農業技術普及に「GAPを取る」「GAPを する」事を併せた農家支援の取り組み

豊田肥料株式会社
植物科学技術研究所 早川克己

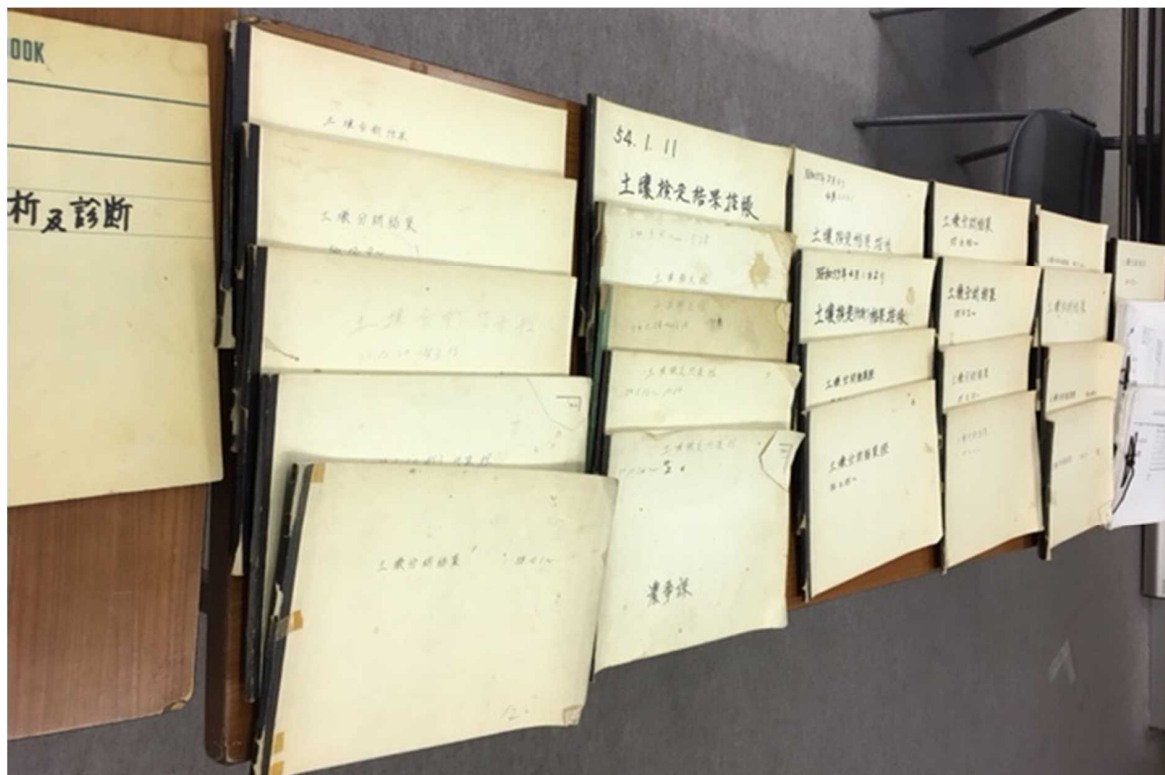
豊田肥料株式会社概況

- 文久3年の創業以来、地域に根ざし農家の皆様と共に歩んでまいりました
- 昭和30年農事専任技術員を設置、土壌分析結果に基づく施肥提案、松島省三博士のV字型稲作理論の普及を開始
- 昭和36年農事部を開設し、茶及び温室メロン品質向上の取り組みを開始
※蓄積された土壌分析データを解析し、品質評価の高い土壌を模範とした独自の基準を作り、土づくり・施肥提案、栽培相談を行い秀品多収により農家収益向上に尽力
- 昭和60年石垣幸三博士が技術顧問に就任し、「茶の特性に合わせた施肥」による高品質(高アミノ酸)の茶作りの取り組みを開始
- 平成18年G A Pへの取り組みを開始

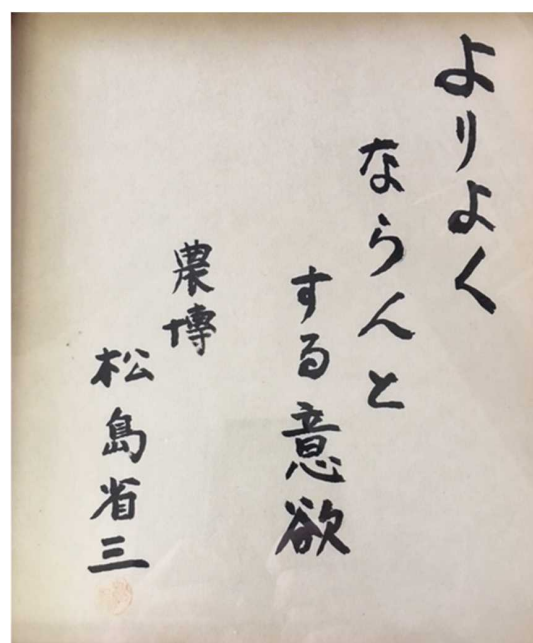
昭和40年代 研究室の様子



蓄積された過去の土壌分析データ



松島省三博士による講演



農業技術普及体制

●技術部門として植物科学技術研究所を設置

※土壌分析結果に基づく土作り及び施肥設計の提案、病虫害診断・生育障害診断、栽培技術・防除相談、研修会・現地講習会等を行なっている

●土壌医1名・土づくりマスター(土壌医2級合格)3名

●施肥技術シニアマイスター2名・施肥技術マイスター25名 施肥技術指導員1名

●毒劇物取扱者 一般品12名、農業品12名

●農薬管理指導士5名、農薬安全コンサルタント4名

●農産物検査員(国内産)12名

平成30年 第64回水稻研修会の様子



GAP普及への取り組み

- 数々の食の安全を揺るがす問題から、安心・安全な農産物を提供する農場づくりの必要性を痛感し、平成18年従来の農業技術支援と併せJGAPの普及を決意！
- 平成18年12月JGAP指導員講習受講(19年1月指導員資格取得)
- 平成21年団体認証講座、審査員研修を受講し団体認証支援開始
※同年12月弊社の取得支援により茶団体が団体認証取得
- 平成25年ふじの国JGAP協議会を立上げ、普及体制を強化
- 平成28年県外からも取得支援・講演会等の講師依頼が増加しこれに対応
- 平成29年農業技術支援に「GAPをする」を併せて普及する事により、高品質で安心安全な農産物を作る農場を増加させ、GAPの底辺拡大を図る

ふじの国GAP協議会研修会の様子



GAP普及体制

●指導員数	ASIAGAP上級指導員	2名
	JGAP上級指導員	3名
	JGAP指導員	6名
	指導員補	13名

※ASIAGAP上級指導員2名が中心となり、GAPの知識を持つ社員全員で県内外のGAP取得支援、「GAPをする」事の普及に対応している

GAP普及実績

●JGAP/ASIAGAP取得支援農場数

- ・団体認証取得支援実績12件(農場数179件)
- ・個人認証取得実績14件
- ・支援中9件(全て個人認証)

※ASIAGAPver1 6件・ASIAGAPver2 2件・ASIAGAPver2.1 2件(支援中)

※団体認証中10件がASIAGAPver2以上取得準備中(1件はver2取得済)

※総農場数202件(面積にして約800ha)

※作目:茶・メロン・水稲・イチゴ・キャベツ・リンゴ・ナシ・モモ・ブドウ・ネギ・キュウリ・柿・キノコ等

●GAP講演・講習への対応

- ・行政などからの講演会・講習会講師の派遣
- ・農場の作業者教育のための講習会の実施

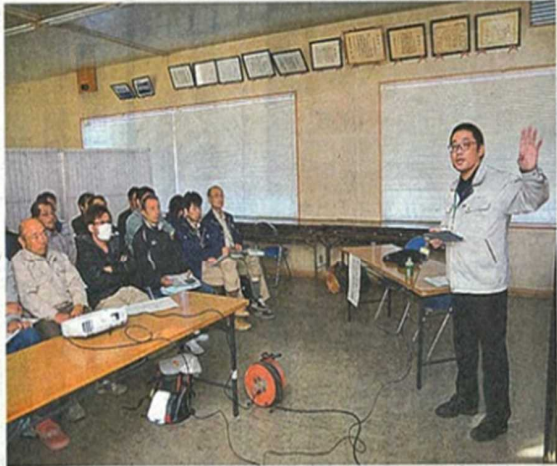
浜松市役所主催 GAP研修会

静岡新聞掲載

農業生産工程管理
メロン農家ら学ぶ
県温室農協浜松支所
浜松市はこのほど、
農業生産工程管理(GAP)認証について学
ぶ研修会を市内で開い
た。浜北区の県温室農
協浜松支所では日本G
AP協会が運営するJ
GAPの上級指導員
で、豊田肥料(袋井市)
勤務の早川克己さんが
「GAPの導入と経営
改善について」と題し
て講演した。

早川さんは、残留農
薬の分析など問題を起
こさないための工程管
理と、問題発生時の適
切な対応が必要と指
摘。重傷を負う事故が
起きて売り上げが激減
したり、研修のつもり
で農場に迎えた外国人
と理解の行き違いで訴
訟に発展したりといっ
た事例を挙げながら
「適切で信頼される農
場経営を」と求めた。

研修会にはメロン農
家ら約30人が参加し、
市内の農場でGAP取
得のための書類や施設
の整備も学んだ。



早川さん(右)の話を聞くメロン農家ら
＝浜松市浜北区の県温室農協浜松支所

GAP普及にあたり苦勞した点

- 普及開始当初は認知度が低く、理解を得るのに時間を要した
 - 茶版発表当初「HACCP対応工場でなければ取れない」等のウワサが広がり、取得を尻込みする工場が続出した
 - 農場内・団体内のコンセンサス
 - ※特に「精揉機屋」と呼ばれる茶工場を持つ農家が核となり、生葉農家が生葉を工場へ売る形態の茶の団体認証で団体内のコンセンサスを取る事に最も苦勞しました。
 - ベテラン農家への対応
 - ※審査員の質問を問い詰められている様に感じ、「審査を嫌がる方」「怒ってしまう方」、審査時にGAPに取り組む以前の事を応えてしまい是正を受ける事が多く、受け答えの練習が必要と痛感
-

取得支援で心がけている点

- 農場内・団体内になぜGAPを導入が必要か理解を得る
 - ※特に導入に消極的な方の理解を得る事
- 自己管理能力を向上させ、信頼出来る農場となる事が重要である事を理解してもらう
 - ※信頼出来る農場が作る農産物が安心・安全である事を理解してもらう
- 基準書の各項目にどのような意図があるか丁寧に説明する
 - ※読み合わせには極力多くの作業者に参加してもらう！

取得支援で心がけている点

●他農場のマニュアル・ルールをそのまま流用させない！

・稼動している農場ならば、責任の所在やルール等はある程度決まっているので、これを明文化し不足分を追加する形でGAP対応させる！

※これまで何十年も行なってきた形を大きく変えてしまうと、なじめない事がミスや手抜きにつながり、大きな問題の呼び水となる事があるので、極力元の形を残す！

●指揮系統・ルール・手順等は出来るだけ単純化させる

・複雑なルールはミス・手抜きの元となります！

●リスクの洗い出し、ルール設定は作業者の意見を聞く

・作業者が参加し意見を出す事で、農場内のコミュニケーションにもなり、自分が上げたリスクやルールが採用されるとGAP導入に積極性が出ます。

※難しい用語は極力使わず、農場内で使っている用語や方言等も使う事で、ルールになじみやすくなります！

今後の計画

●農業技術支援・GAP取得支援を行い、高品質で安心安全の農産物を提供出来る農場作りへの協力

●農業技術支援に「GAPをする」事を併せて普及し、GAPの底辺拡大を図る

●山間地茶業等への農業技術支援、GAP取得支援を通して、耕作放棄地対策・地域経済活性化への協力

●農業高校、農業大学等のGAP取得支援を行い次代を担う農業者育成への協力

ご清聴ありがとうございました！



<GAP 普及大賞 2018>
豊田肥料株式会社が受賞！
「地域に根ざし培ってきた技術力を生かして進める
GAP 普及の取組」が評価されました。

一般財団法人日本 GAP 協会（代表理事専務：松井俊一）は、GAP 普及大賞 2018 の選考委員会を開催し、3 つの GAP 普及の優良事例を表彰することを決定しましたので、ご報告致します。

■GAP 普及大賞受賞事例：豊田肥料株式会社

豊田肥料株式会社は、静岡県袋井市を本社とする歴史ある肥料商として、地域に根ざし培ってきた技術力を生かし、ASIAGAP および JGAP の取得支援による経営改善と併せ、「GAP をする」ことを普及し、GAP の底辺拡大を行なっていることが、GAP 普及の好事例として高く評価されました。

創業 155 年となる豊田肥料株式会社は、昭和 30 年代より実地の栽培技術と土壌分析結果から施肥設計を提案し収量・品質向上を図ることで農家の収益改善に役立てる、地元密着型の活動を進めてきました。

この実績をもとに、2006 年からは、これまでの農業技術支援による秀品・増収への取り組みと併せ、「GAP を取る」、「GAP をする」ことにより農場の自己管理能力を高め、信頼のおける農場づくりを積極的に支援しています。現在まで ASIAGAP および JGAP の取得支援農場数は、県内外を合わせ団体認証取得支援実績 12 件（農場数 179 件）、個別認証取得実績 14 件、支援中 7 件、うち ASIAGAP Ver.1 が 6 件、Ver.2 が 4 件と多数に上っています。また、このような個別の指導に加え、2013 年には県内の農場による「ふじの国 JGAP 協議会」を立ち上げ、多数の講習会等も実施しており、地域に根ざした GAP 普及への貢献にはめざましいものがあります。これらの取組が GAP 普及大賞にふさわしいものと高く評価されました。

GAP 普及大賞は、一般財団法人日本 GAP 協会が主催する、今年一年間で最も GAP の普及に貢献した取り組み事例を表彰するものです。GAP 普及大賞 2018 の選考委員は次の通りです。

岩元明久（日本農業普及学会 副会長）、小池 甲（新潟県三条地域振興局農業振興部企画振興課 主査普及指導員）、田口光弘（農研機構中央農業研究センター農業経営研究領域 主任研究員）

この豊田肥料の取組に加え、下記の 2 事例が同時に受賞しました。いずれも甲乙付け難い GAP 普及の優良事例です。

－GAP 普及大賞－ <受賞者>京丸園株式会社

－同 特別賞－ <受賞者>福島県・福島県農業協同組合中央会

以上の 3 受賞事例について、下記のシンポジウム内で表彰式と受賞者による記念講演が行われます。ぜひご来場下さい。

■シンポジウム「GAP Japan 2018」

- ・日時：2018 年 10 月 3 日（水） 13 時から 17 時 30 分
- ・場所：東京大学 弥生講堂（東京都文京区弥生 1-1-1）
- ・関連ホームページ：<https://2018.jgap.asia/> ※参加申込を受付中です
- ・問合せ先：荻野（おぎの）TEL 03-5215-1112 FAX 03-5215-1113 E-mail: info@jgap.jp